

市民力・企業力・行政力を結集して 愛する“ぎふのまち”に賑わいを創ろう!

意見広告

社団法人
岐阜青年会議所



社団法人 岐阜青年会議所
第58代理事長 内藤 宙

(社)岐阜青年会議所(岐阜JC)は岐阜市を中心とした地域において「明るい豊かな社会の実現を目指し」、「ひとり・まちづくり」運動を展開する青年経済人の団体です。そして私たちメンバーは、社会の発展に貢献するための様々な奉仕活動を企画・実行していくプロセスを通じて自己研鑽を重ね、青年経済人としての資質向上を図りつつ、日本中709団体、約4万人・世界中(128カ国、約17万人)(2009年11月集計時)のメンバーとの友情を育むことを信条として活動しています。

創始より58年目を迎える本年は、私たちが描く、まちづくり運動ビジョン「アクティブコンパクトシティ ぎふ」(左図1)「賑わい、助け合いのあるまち」(左図2)の実現に向けて活動を行い3年目となります。ぎふのまち(岐阜市及び近隣市町の一部を含む地域)を支える市民力・企業力・行政力の3つの力を合わせて相乗効果を生み出し、まちの活力を最大化させる運動方針「Spiral Up Gifu Power!」のもと、より多くの地域や人々と協働しながら「ぎふのまち」の賑わいの源となる「人財の育成」や「青少年の心身育成」など、ビジョン実現に向けての取り組みを行って参ります。

《市民力・企業力・行政力を結集して 愛する“ぎふのまち”に賑わいを創ろう!》

私たちは、2007年にまちづくり運動ビジョン(左図1)に基づき、ぎふの中心市街地に経済面での個性を創出し、活性化に繋げるべく「ぎふスイーツガーデン」構想(左図2)を提言させていただきました。これは、家族連れや女性にも親しみやすいスイーツを切り口にして、まちの活性化を図るものです。岐阜県は蜂蜜の生産量全国1位、柿や栗の生産量も全国ベスト5に入るなど、スイーツに関連した地域の産物に恵まれています。また、織田信長が岐阜城で南蛮菓子を食べたといわれ、茶人古田織部の出身地としてお茶とお菓子の文化にも理解がある土地柄で、歴史・文化的背景もあります。そして、岐阜市における世帯あたりの年間喫茶代も全国1位と、スイーツのまちとしてふさわしい要素が十二分にあります。

この構想をもとに「美味空間スイーツフェスタぎふ2008」を開催し、本年は市内商店街、菓子づくりに携わる皆様、行政の皆様、多くの市民の皆様と協働し、「スイーツフェスタぎふ2009」を岐阜市中心市街地にある空き店舗ビル(旧長崎屋)にて開催致しました。



図1



図2

本年は、特に、市民力・企業力・行政力の3つの力を合わせた協働型のまちづくり、地域の産物と「人財」を活かしたまちづくり、そして中心市街地の空き店舗を活かし、まちの活性化に繋げることなどを目的に活動致しました。

《まちづくりはひとづくり ぎふのまちに未来の“人財”の種を蒔こう!》

厳しい経済状況の中、時間的にも精神的にも余裕がなくなつてきており、子どもたちとの関わり、学校との関わり、地域との関わり、に煩わしさを感じていないでしょうか?こうした気持ち蔓延し、互いのコミュニケーション不足に陥ることにより、地域コミュニティの絆が希薄化し、子どもたちが、互いを思いやることや、人の痛みを知ることなど、人として一番大切なことを学び難くなっていると考えます。

そこで、私たちは、青少年の心身育成と地域の人々の関わりを推進すべく、本年度4年目を迎える「スポーツチャレンジぎふ2009」を「2012年ぎふ清流国体応援事業」として約800人の子どもたちに参加してもらい、企業、行政、地域の大学生や市民サポーターの皆様の協力のもと、地域に愛される事業を目指して取り組みました。

また近年、自分たちの将来に夢や希望を持てずに意欲や自信を失っている若者たちの増加も問題となっています。私たちは本年「ぎふのまち」の未来を担う中高生たちに、自らが暮らす「ぎふのまち」について考えてもらったり、なぜ勉強したり、働いたりするのかについて学んでもらいました。私たちは教育のプロではありません。しかし「ひとり・まちづくり」運動を率先して行い、大人の背中を見せながら共に活動することはできます。私たちはJC活動を通じて、周りのために汗を流すことの喜びを感じています。15歳前後の年齢で、そのような活動を仲間と共に「ぎふのまち」や人のために行うことは、彼らにとっても、ぎふのまちの未来にとっても、必ずや有益なものになると確信しています。

本年は、「みんなの『よかった!』が聞きたい」自利利他円満の心で、創ろう未来の人財を「」を活動スローガンとして「ひとり・まちづくり」運動に邁進して参りました。私たちが取り巻く環境は、今までのない困難な局面を迎えています。しかしながら、己のことだけで目一杯になり、大切なことを忘れがちな今だからこそ、私たちは自らの行動を見つめ直し、己を利するためには、まず周りを利する、そして双方が円満に調和する。自利利他円満の心を胸に活動することが大切だと考えます。どんな人でも誰かのために働き、その人に「ありがとう」と言われたら嬉しいものです。人は、本能的に人のために働き、感謝されることに生きがいを感じるものだと考えられます。

地域の人々をはじめる、私たちの活動に関わる全ての人々の「よかった!」という満足感が、私たちの喜びや成長に繋がることを信じ活動して参ります。今後とも(社)岐阜青年会議所の活動に、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

～中心市街地の活性化～

「ぎふスイーツガーデン」構想実現に向けての取り組み

ぎふの中心市街地を活性化するために、スイーツを切り口とした「スイーツフェスタぎふ」を2008、2009年と柳ヶ瀬を中心とした地域にて開催しました。本年は、地元商店街や岐阜県洋菓子協会・各諸団体の協力により5,000人を超える多くの方にご来場いただきました。多くの方から、ぎふの中心市街地の賑わいを期待する声をいただきました。

2009 地域の人との関わりによる賑わいの創出!

地域の人との協働

商店街や洋菓子協会・自治会・行政との関わりを持ち、組織を形成して活動を行うことができました。

「サマーウィークフェスタ イン 柳ヶ瀬実行委員会」

岐阜市柳ヶ瀬商店街振興組合連合会・(社)岐阜青年会議所・NPO団体との実行委員会を設立しました。7月25日～8月2日の期間、柳ヶ瀬一帯で様々なイベントを開催しました。また、岐阜県・岐阜市の補助事業として行政の支援を受けました。

「スイーツフェスタぎふ2009実行委員会」

ぎふスイーツガーデン構想に共感していただいた中心市街地に関わる方や諸団体で構成する実行委員会を設立しました。8月1日に、「サマーウィークフェスタ イン 柳ヶ瀬」の一環として、「スイーツフェスタぎふ2009」を開催しました。各ブースに多くの人が訪れ、大盛況でした。

空き店舗を活用して...

柳ヶ瀬の中心にある空き店舗(旧長崎屋)を8年ぶりに活用して、県内外のスイーツ店が集まるカフェ空間を実際に体感していただきました。来場された方から、「柳ヶ瀬にこんな空間があるといいね!」と柳ヶ瀬商店街の賑わいを期待する感想をいただきました。

名物スイーツづくり

最中(もなか)の皮に枝豆を使用したオリジナルスイーツを創作・発表しました。また、柳ヶ瀬の飲食店10店舗でも各店のオリジナル「やなもな!」を創作し、販売していただきました。このイベントを通じて、柳ヶ瀬商店街の店舗と連携し、柳ヶ瀬の名物づくりに挑戦しました。

外部協力: 岐阜県、岐阜市、杭州市、岐阜市柳ヶ瀬商店街振興組合連合会、岐阜県洋菓子協会、徹明自治会連合会、日の出町商店街、岐阜商工会議所女性会、JA ぎふ、(財)岐阜市にぎわいまち公社、(財)みつばちの家、パティスリー・ボタジエ、(株)シェイフエムぎふ、ひとひとの会、(株)セブン・ツー、緑水庵、美笠屋、木村農園、飛騨牛乳、アークアララ中部、(株)サン・リース、(社)富山青年会議所(順不同)



市民との協働による清掃活動



ベストセレクションカフェ



やなもな!

～お店からの声～ mb cafeさん

「スイーツによるまちづくりに共感します。岐阜の特産品の枝豆を使用し、柳ヶ瀬のゆるキャラである『やなな』とコラボレートした「柳ヶ瀬ぷりん」を作りました。これからも柳ヶ瀬商店街から、スイーツの魅力を発信していきたいと考えています。」



柳ヶ瀬に
来てね!

今後の展開

- I: 市民・企業・行政との協働
...市民・企業・行政が協働して構想実現を目指す組織づくり
- II: 「ぎふ＝スイーツのまち」のイメージ定着
...「スイーツフェスタぎふ」の継続的な開催・名物スイーツの創作
- III: 企業などの誘致活動の継続
...若者を中心とした起業家支援 出店補助方法の模索・研究
- IV: 人材育成
...専門学校・大学などとの連携

今後も、私たちは中心市街地の活性化に繋がる活動に真摯に取り組んでいきます。「スイーツガーデン」構想の実現には「地域の力」が必要不可欠であると考えます。まずは、実際に私たちが「スイーツ」でぎふの中心市街地の「賑わい」を創る活動に継続的に取り組むと共に、率先して市民・企業・行政との協働を促していきます。

【担当:スイーツガーデン委員会】

2007

「ぎふスイーツガーデン」構想 策定・発表

「何度来ても新たな発見がある!」
「誰もが行ってみたいくなる!」
そんな空間を創りたいと考えます

構想実現へ向けての課題と提言

課題1: 初期投資の問題

提言1・新規出店企業に対する助成
提言2・第3者による共同カフェテラスの運営経営

課題2: 柳ヶ瀬の魅力づくり

提言1・イベントの展開
提言2・菓子作り体験スペースを常設
提言3・スイーツガーデン市民会議の発足
提言4・無料駐車場
提言5・各構想を運動させたまち全体の魅力づくり
提言6・モバイルを活用したプロモーション

課題3: 菓子業界の人材不足

提言1・専門学校と連携したひとづくりまちづくり

2008

スイーツを切り口とした 魅力の創出!

- ・ベストセレクションカフェ
- ・創作お菓子コンテスト
- ・お菓子教室
- ・柳ヶ瀬ラリー
- ・スイーツマップ
- ・体験型ふるまい
- ・スイーツトレイン
- ・柿沢安耶氏(パティスリー・ボタジエ)による枝豆スイーツ創作と講演



創作お菓子コンテスト



柿沢安耶氏による講演